

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
 ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
 ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載
 ※3 4回線送電線(4バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し3回線(3バンク)分の容量を記載
 ※4 5回線送電線(5バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し4回線(4バンク)分の容量を記載
 ※5 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮
 ※6 ループ系統構成(電源線を含む)を考慮
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
 (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
- (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
 #1 基幹系ループ系統のため
 #2 1回線送電線のため
 #3 1バンク変電所(分割運用等含む)のため
 #4 配電用変電所のため(高圧電源の系統連系の場合、N-1電制は対象外となります。)
 #5 安定度制約のため(制約が確認できているもの)
 #6 2回線送電線の分割運用等のため
- (5) N-1電制適用可能欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変わる場合があります。
 なお、高圧系統に接続される電源の場合、N-1電制は対象外となります。
- (6) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
 (7) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
 (8) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開していません。
 (9) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量、運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

〔5 古賀地区〕

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	ノンファーム 型接続	ノンファーム適用系統		備考
							当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系のノンファーム設備	
1	古賀線	220	2	474	361	熱容量	301	301	可	112	—	—	—	送電線接続端子数の制約により、当該設備への新規接続不可
2	北九州東福岡線	220	2	1,224	703	熱容量	0	0	可	0	適用	対象	—	送電線接続端子数の制約により、当該設備への新規接続不可
3	赤間分岐線	66	2	176	96	熱容量	96	14	可	79	—	—	—	上位系(送電線No.4久保宗像線)による制約
4	久保宗像線	66	2	166	86	熱容量	14	14	可	79	—	—	—	
5	久保分岐線	66	2	190	104	熱容量	25	25	可	85	—	—	—	
6	古賀福岡線	66	2	102	58	熱容量	35	35	可	43	—	—	—	
7	古賀新宮線	66	2	260	130	熱容量	130	130	可	130	—	—	—	
8	和白分岐線	66	2	260	143	熱容量	143	130	可	117	—	—	—	上位系(送電線No.7古賀新宮線)による制約
9	前松原古賀線	66	2	260	130	熱容量	130	130	可	130	—	—	—	
10	新宮塩屋線	66	2	64	36	熱容量	36	36	可	27	—	—	—	
11	東福岡前松原線	66	2	208	119	熱容量	119	119	可	88	—	—	—	
12	前松原香椎線	66	2	216	118	熱容量	118	118	可	97	—	—	—	
13	香椎アイランドシティ線	66	2	160	88	熱容量	87	87	可	72	—	—	—	
14	香椎1番線	22	1	10	10	熱容量	10	10	不可 #2	—	—	—	—	※1
15	香椎2番線	22	1	10	10	熱容量	10	10	不可 #2	—	—	—	—	※1
16	香椎3番線	22	1	16	16	熱容量	16	16	不可 #2	—	—	—	—	※1
17	香椎4番線	22	1	16	16	熱容量	16	16	不可 #2	—	—	—	—	※1
18	凸版1号線	22	1	16	16	熱容量	16	7	不可 #2	—	—	—	—	※1上位系(変電所No.4-2久保変電所)による制約
19	凸版2号線	22	1	16	16	熱容量	14	7	不可 #2	—	—	—	—	※1上位系(変電所No.4-2久保変電所)による制約

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
 ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
 ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載
 ※3 4回線送電線(4バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し3回線(3バンク)分の容量を記載
 ※4 5回線送電線(5バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し4回線(4バンク)分の容量を記載
 ※5 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮
 ※6 ループ系統構成(電源線を含む)を考慮
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
 (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
 (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
 #1 基幹系ループ系統のため
 #2 1回線送電線のため
 #3 1バンク変電所(分割運用等含む)のため
 #4 配電用変電所のため(高圧電源の系統連系の場合、N-1電制は対象外となります。)
 #5 安定度制約のため(制約が確認できているもの)
 #6 2回線送電線の分割運用等のため
- (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。
 なお、高圧系統に接続される電源の場合、N-1電制は対象外となります。
 (6) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆流対策が必要になる可能性があります。
 (7) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
 (8) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開していません。
 (9) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量、運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

〔5 古賀地区〕

変電所 No	変電所名	電圧 (kV)		台数	設備容量 (100%×台数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量 (MW)	ノンファーム型接続	ノンファーム適用系統		備考
		一次	二次					当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系のノンファーム設備	
1-1	古賀	220	66	2	475	296	熱容量	236	236	可	178	-	-	-	
1-2	古賀	66	6	3	57	57	熱容量	16	16	不可 #4	-	-	-	-	
2	赤間	66	6	1	28	28	熱容量	27	14	不可 #4	-	-	-	-	上位系(送電線No.4 久保宗像線)による制約
3	宗像	66	6	3	66	66	熱容量	2	2	不可 #4	-	-	-	-	
4-1	久保	66	6	2	38	38	熱容量	19	19	不可 #4	-	-	-	-	
4-2	久保	66	22	2	19	19	熱容量	7	7	不可 #4	-	-	-	-	
5	福岡	66	6	3	69	69	熱容量	10	10	不可 #4	-	-	-	-	
6	新宮	66	6	3	85	85	熱容量	28	28	不可 #4	-	-	-	-	
7	和白	66	6	1	28	28	熱容量	28	28	不可 #4	-	-	-	-	
8-1	塩屋	66	6	2	28	28	熱容量	14	14	不可 #4	-	-	-	-	
8-2	塩屋	66	22	2	11	11	熱容量	5	5	不可 #4	-	-	-	-	
9	前松原	66	6	3	76	76	熱容量	19	19	不可 #4	-	-	-	-	
10-1	香椎	66	6	3	85	85	熱容量	28	28	不可 #4	-	-	-	-	
10-2	香椎	66	22	2	57	57	熱容量	28	28	不可 #4	-	-	-	-	
11	アイランドシティ	66	6	2	57	57	熱容量	28	28	不可 #4	-	-	-	-	